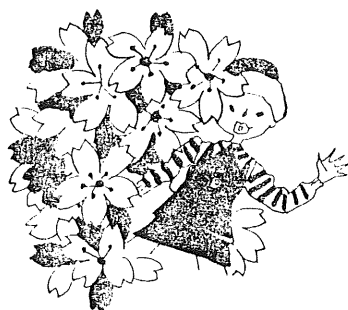


保健室相談活動調査研究委員会
保健室利用者調査報告書



平成3年度

財団法人 日本学校保健会

ま え が き

最近、心の問題を抱えて保健室に相談を求める児童生徒が多いことが指摘されており、こうした児童生徒に対応する養護教諭の相談活動の充実を図ることが急務とされています。

このため、財団法人 日本学校保健会では保健室を訪れる児童生徒の実態、その処置・対応について、相談活動の充実に資することを目的として実態調査を行いました。

この度、調査結果がまとまりましたので報告書を作成しました。

調査の実施に当たりご協力をいただきました都道府県の教育委員会並びに加盟団体、養護教諭の方々に対しまして、心より御礼申し上げます。

平成3年11月

財団法人 日本学校保健会

会 長 村 瀬 敏 郎

養護教諭相談活動調査研究委員会
保健室利用者調査報告書

目 次

1	はじめに	1
2	調査設計	2
①	調査時期および期間	2
②	調査対象者	2
③	調査内容	2
④	調査対象校及び在籍児童生徒数	2
3	調査結果	4
1)	学校基礎調査の結果	4
①	学校種別調査数	4
②	保健室に付随する相談室（コーナー）	5
③	教育相談部の有無と養護教諭の所属	5
④	心の問題で支援している事例	6
⑤	保健室登校	8
2)	保健室利用者調査の結果	10
①	保健室利用者数	10
②	来室時間	12
③	来室理由	14
④	記録の必要の有無	16
⑤	養護教諭の判断	17
a	救急処置が必要と判断したもの	18
b	相談が必要と判断したもの	20
c	指導・連絡が必要と判断したもの	22
⑥	養護教諭の処置・対応	24
⑦	身体的な訴えで来室した児童生徒に対して 養護教諭が「相談」と判断した割合	26
付)	質問票	28
	保健室相談活動調査研究委員会委員	32

1 はじめに

保健室に来室する多数の児童生徒の中には、身体面のみでなく、学習面、友人関係、家庭事情などさまざまな訴えを持ち、相談を求めてくる者がみられます。また、表面的には、頭痛、腹痛、不快、不定愁訴など身体的な症状を訴えながら、内面では心の問題を持っている児童生徒の状況が指摘されています。心のふれあいの場、心の安らぎの場、心の垣根を取り外す場として、心の憩いを求めて来室する児童生徒も少なくありません。いつでも困った時、悩みのある時、気軽に利用できる保健室の存在は大きいものがあります。

児童生徒の状態を温かく受け入れ、早期に総合的に状況を判断し、適切な対応ができることは、児童生徒のもつ問題を早期に、かつ適切に解決することにつながります。このような意味で、養護教諭は最初に対応することができ、相談活動が行われる意味でもその活動の充実が求められています。また、学校自体の積極的取組みが一層重要となっております。

日本学校保健会の事業として、「保健室における相談活動に関する調査研究」の委員会が15名の委員により、平成2年6月発足いたしました。3年間の事業の内容の一つとして、保健室を訪れる児童生徒の実態調査があります。今回は、全国の各都道府県、政令指定都市の小学校、中学校、高等学校、985校を対象として、11、12月に1週間にわたる保健室を訪れる児童生徒の実態を、来室理由、養護教諭の判断と処置、相談的対応の実態について調査を行いました。

この調査の内容が、児童生徒の心身の健康問題への取組みに役立つことを期待いたします。

平成3年11月

保健室相談活動調査委員会

委員長 飯田澄美子

2 調査設計

保健室を訪れる児童生徒の主訴、症状等を分析し、養護教諭の行なう相談活動の充実を図るために、以下のような設定に基づいて全国調査を行なった。

① 調査時期および期間

平成2年11月～12月中の特定の連続する6日間（日曜日を除く）を調査期間とし、祭日等である曜日が抜ける場合は、別の週の同じ曜日で補うこととした。

② 調査対象者

調査対象者としては、調査期間内に調査対象校の保健室に来室した児童生徒のすべてとし、(1)付き添いや友達仲間の付き合いで来室した児童生徒、(2)月例体重測定、グループ指導等で来室した児童生徒の両者も含めることとした。さらに、保健室外で養護教諭による相談や個別指導を行った児童生徒も対象者に含めた。

③ 調査内容

調査は2種類の質問紙を用いた郵送法により実施した。2種類の質問紙は調査対象校の特性を把握するための「学校基礎調査票」と、保健室に来室した児童生徒の個人調査のための「保健室利用カード」である。なお、それぞれの保健室利用カードに対応して「養護教諭の判断と処置記録」を記載した。

④ 調査対象校及び在籍児童生徒数

表1に示したように、調査対象校数は小学校、中学校、高等学校ともに各329校であり、合計987校の調査を実施した。なお、調査対象校は全て公立学校であり、選出は各都道府県教育委員会、各政令指定都市教育委員会に依頼した。

調査の回収率は、小学校と高等学校は各328校で99.7%、中学校は329校で100%であり、全体では987校中985校99.8%の高率であり、ほぼ当初の設定通りの資料が収集された。

回答校の在籍児童生徒総数は、小学校178,460人、中学校199,757人、高等学校340,780人、計718,997人である。

表1 調査対象校及び在籍児童生徒数

			小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	計
調 査 対 象 校			329	329	329	987
回答校及び回収率(%)			328 (99.7)	329 (100.0)	328 (99.7)	985 (99.8)
回答校の在籍児童生徒数	1、2 年 (中・高は1年)	男	29,419	33,156	57,944	
		女	27,796	31,125	55,336	
		計	57,215	64,281	113,280	
	3、4 年 (中・高は2年)	男	29,883	34,237	58,324	
		女	28,263	32,044	56,048	
		計	58,146	66,281	114,372	
	5、6 年 (中・高は3年)	男	32,433	35,700	58,005	
		女	30,666	33,495	55,123	
		計	61,548	69,195	113,128	
	合 計	男	91,735	103,093	174,273	369,101
		女	86,725	96,664	166,507	349,896
		計	178,460	199,757	340,780	718,997

3. 調査結果

1) 学校基礎調査の結果

① 学校種別調査数

学校所在地別にみる学校調査数は、表2の示す通りで、人口50万人以上の市に所在している小学校は67校(20.4%) 中学校71校(21.6%) 高等学校59校(18.0%) で合計197校で全体の約20%を占めている。人口50万未満の市に所在している小学校は154校(47.0%) 中学校141校(42.9%) 高等学校163校(49.7%) 計458校で全体の約半数である。また、町村に所在している小学校は99校(30.2%) 中学校108校(32.8%) 高等学校90校(27.4%) の計297校で全体の約30%を占めており、小、中、高とも、学校所在地別の学校数の割合はほぼ同じである。

表2 学校所在地別学校数

	小学校(%)	中学校(%)	高等学校(%)	合 計(%)
人口50万人以上の市	67(20.4)	71(21.6)	59(18.0)	197(20.0)
人口50万未満の市	154(47.0)	141(42.9)	163(49.7)	458(46.5)
町村	99(30.2)	108(32.8)	90(27.4)	297(30.2)
無回答	8(2.4)	9(2.7)	16(4.9)	33(3.4)
合 計	328(100.0)	329(100.0)	328(100.0)	985(100.0)

学校別の生徒数の分布は表3の通りであり、小学校は600人台が一番多いが、400人、500人、700人台もほぼ同じ割合である。中学校もやはり600人台が一番多い。高等学校は小、中学校に比べて生徒数が1000人以上の学校が多く、高等学校全体の59.7%を占めている。

表3 学校種別生徒数

生 徒 数	小学校(%)	中学校(%)	高等学校(%)	合 計(%)
1—99	7(2.1)	7(2.1)	1(0.3)	15(1.5)
100—	28(8.5)	10(3.0)	2(0.6)	40(4.1)
200—	36(11.0)	26(7.9)	8(2.4)	70(7.1)
300—	32(9.8)	23(7.0)	14(4.3)	69(7.0)
400—	43(13.1)	42(12.8)	13(4.0)	98(9.9)
500—	38(11.6)	45(13.7)	19(5.8)	102(10.4)
600—	45(13.7)	58(17.6)	16(4.9)	119(12.1)
700—	36(11.0)	39(11.9)	17(5.2)	92(9.3)
800—	24(7.3)	22(6.7)	21(6.4)	67(6.8)
900—	16(4.9)	21(6.4)	21(6.4)	58(5.9)
1000—	12(3.7)	16(4.9)	23(7.0)	51(5.2)
1100—	4(1.2)	6(1.8)	33(10.1)	43(4.4)
1200—	3(0.9)	6(1.8)	29(8.8)	38(3.9)
1300—	1(0.3)	2(0.6)	37(11.3)	40(4.1)
1400—	0(0.0)	0(0.0)	25(7.6)	25(2.5)
1500—	0(0.0)	0(0.0)	14(4.3)	14(1.4)
1600—	0(0.0)	0(0.0)	23(7.0)	23(2.3)
1700—	0(0.0)	0(0.0)	2(0.6)	2(0.2)
1800—	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
—1999	0(0.0)	0(0.0)	2(0.6)	2(0.2)
無 回 答	3(0.9)	6(1.8)	8(2.4)	17(1.7)
合 計	328(100.0)	329(100.0)	328(100.0)	985(100.0)

② 保健室に付随する相談室（コーナー）

保健室に付随する相談室は表４の通りで、有りと回答した学校は小学校114校（34.8%）、中学校113校（34.3%）、高等学校122校（37.2%）で各校種ともほとんど差は見られず対象校の３分の１以上の学校が相談室を持っている。

表４ 保健室に付随する相談室（コーナー）の有無

	小学校(%)	中学校(%)	高等学校(%)	合計(%)
有　　り	114(34.8)	113(34.3)	122(37.2)	349(35.4)
無　　し	210(64.0)	210(63.8)	202(61.6)	622(63.1)
無 回 答	4(1.2)	6(1.8)	4(1.2)	14(1.4)
合　　計	328(100.0)	329(100.0)	328(100.0)	985(100.0)

③ 教育相談部の有無と養護教諭の所属

学校の組織としての相談部の有無に関しては、表５の通りであり、教育相談部が有ると回答したのは小学校167校（50.9%）で約半数である。中学校は227校（69.0%）高等学校は215校（65.5%）であり、中・高等学校は小学校に比べると15～20%も多い。しかし、養護教諭と教育相談部の関わりについては、表６に示す通りであり、養護教諭が教育相談部に所属しているのは小学校では108校（32.9%）、中学校では97校（29.5%）、高等学校では129校（39.3%）で全体で３割強の学校となっている。

表５ 教育相談部の有無

	小学校(%)	中学校(%)	高等学校(%)	合計(%)
有　　り	167(50.9)	227(69.0)	215(65.5)	609(61.8)
無　　し	158(48.2)	95(28.9)	110(33.5)	363(36.9)
無 回 答	3(0.9)	7(2.1)	3(0.9)	13(1.3)
合　　計	328(100.0)	329(100.0)	328(100.0)	985(100.0)

表６ 養護教諭の教育相談部への所属

	小学校(%)	中学校(%)	高等学校(%)	合計(%)
所属して いる	108(32.9)	97(29.5)	129(39.3)	334(33.9)
所属して ない	185(56.4)	204(62.0)	170(51.8)	559(56.8)
無回答	35(10.7)	28(8.5)	29(8.8)	92(9.3)
合　　計	328(100.0)	329(100.0)	328(100.0)	985(100.0)

④ 心の問題で支援している事例

養護教諭が中心となって、心の問題のために現在継続して支援している事例の有無について、学校の規模別にみると、表7の通りである。「有り」と回答している学校は小学校150校(46.2%)、中学校234校(72.4%)、高等学校226校(70.6%)と、中学、高等学校では小学校に比べると明らかに多くなっている。また、規模別に見ると共通して規模が大きくなるに従い、「有り」と回答した割合が多くなり、特に中学、高校に関しては大規模校のうち80%以上を占めている。

また、支援事例の数は表8のごとくで、小学校では1例(42.8%)が最も多く中学校は4例から9例(25.8%)、同じく高等学校も4例から9例(30.3%)が最も多い。学校規模別にみると、やはり、大規模校においては4例から9例の支援事例が多くなる傾向にある。

注：ここで「継続して支援している」とは、心の問題を持つ児童生徒に対し、かなりの期間にわたり継続して養護教諭が中心になって、本人、家庭、関係教職員及び関係機関への働きかけなどを行い問題解決を図っていることをいう。

表7 学校規模別による支援事例の有無

小学校	児童数	小規模(%) (400未満)	中規模(%) (400-699)	大規模(%) (700以上)	合計(%)
	有	39(37.9)	63(50.0)	48(50.0)	150(46.2)
	無	62(60.2)	63(50.0)	47(49.0)	172(52.0)
	無回答	2(1.9)	0	1(1.0)	2(0.6)
中学校	合計	103(100.0)	126(100.0)	96(100.0)	325(100.0)
	生徒数	小規模(%) (400未満)	中規模(%) (400-699)	大規模(%) (700以上)	合計(%)
	有	36(54.5)	107(73.8)	91(81.3)	234(72.4)
	無	30(45.5)	37(25.5)	21(18.8)	88(27.2)
高等学校	無回答	0	1(0.7)	0	1(0.3)
		66(100.0)	145(100.0)	112(100.0)	323(100.0)
		36(63.0)	97(67.4)	83(80.6)	226(70.6)
	有	27(37.0)	47(32.6)	20(19.4)	94(29.4)
高等学校	無回答	0	0	0	0
		73(100.0)	144(100.0)	103(100.0)	320(100.0)
	合計	73(100.0)	144(100.0)	103(100.0)	320(100.0)

表 8 学校規模別による支援事例数（支援事例有りのみ）

小学校	児童数	小規模(%) (400未満)	中規模(%) (400-699)	大規模(%) (700以上)	合計(%)
	1	14(40.0)	27(43.5)	21(43.8)	62(42.8)
	2	11(31.4)	13(21.0)	11(22.9)	35(24.1)
	3	1(2.9)	12(19.4)	7(14.6)	20(13.8)
	4～9	7(20.0)	9(14.5)	7(20.0)	23(15.9)
	10以上	2(5.8)	1(1.6)	2(4.2)	5(3.4)
	合計	35(100.0)	62(100.0)	48(100.0)	145(100.0)
中学校	生徒数	小規模(%) (400未満)	中規模(%) (400-699)	大規模(%) (700以上)	合計(%)
	1	9(25.0)	27(26.7)	20(22.7)	56(24.9)
	2	9(25.0)	27(26.7)	17(19.3)	53(23.6)
	3	10(27.8)	16(15.8)	18(20.5)	44(19.6)
	4～9	8(22.2)	22(21.8)	28(31.8)	58(25.8)
	10以上	0(0.0)	9(8.9)	5(5.7)	14(6.2)
	合計	36(100.0)	101(100.0)	88(100.0)	225(100.0)
高等学校	生徒数	小規模(%) (700未満)	中規模(%) (700-1299)	大規模(%) (1300以上)	合計(%)
	1	15(32.6)	23(24.5)	11(13.6)	49(22.2)
	2	7(15.2)	24(25.5)	16(19.8)	47(21.3)
	3	8(17.4)	16(17.0)	19(23.5)	43(19.5)
	4～9	12(26.1)	25(26.6)	30(37.0)	67(30.3)
	10以上	4(8.8)	7(7.4)	5(6.2)	16(7.2)
	合計	46(100.0)	94(100.0)	81(100.0)	221(100.0)

⑤ 保健室登校

現在、保健室登校をしている児童生徒の有無については、表9の通りで、「有り」と回答しているのは小学校23校（7.1%）、中学校75校（23.2%）、高等学校26校（8.1%）であり、中学校が他に比べて多い。また、保健室登校の数については表10のごとくで、小、中、高とも1例が大半を占めている。しかし、中学校に関しては3例以上と回答した学校が全体の約11%を占めているのが特徴となっている。

注：ここで保健室登校とは常時保健室にいるか、特定の授業には出席できても、学校にいる間は主として保健室にいる状態をいう。

表9 学校規模別による保健室登校の有無

小学校	児童数	小規模(%) (400未満)	中規模(%) (400-699)	大規模(%) (700以上)	合計(%)
	有　　り	7(6.8)	10(7.9)	6(6.3)	23(7.1)
	無　　し	95(92.2)	115(91.3)	90(93.8)	300(92.3)
	無回答	1(1.0)	1(0.8)	0	2(0.6)
	合　　計	103(100.0)	126(100.0)	96(100.0)	325(100.0)
中学校	生徒数	小規模(%) (400未満)	中規模(%) (400-699)	大規模(%) (700以上)	合計(%)
	有　　り	9(13.6)	38(26.2)	28(25.0)	75(23.2)
	無　　し	57(86.4)	107(73.8)	84(75.0)	248(76.8)
	無回答	0	0	0	0
	合　　計	66(100.0)	145(100.0)	112(100.0)	323(100.0)
高等学校	生徒数	小規模(%) (700未満)	中規模(%) (700-1299)	大規模(%) (1300以上)	合計(%)
	有　　り	7(9.6)	9(6.3)	10(9.7)	26(8.1)
	無　　し	66(90.4)	135(93.8)	93(90.3)	294(91.9)
	無回答	0	0	0	0
	合　　計	73(100.0)	144(100.0)	103(100.0)	320(100.0)

表10 学校規模別による保健室登校の数（保健室登校有りのみ）

小学校	児童数	小規模(%) (400未満)	中規模(%) (400-699)	大規模(%) (700以上)	合計(%)
	1	3(50.0)	9(90.0)	2(40.0)	14(66.7)
	2	3(50.0)	1(10.0)	3(60.0)	7(33.3)
	合計	6(100.0)	10(100.0)	5(100.0)	21(100.0)
中学校	生徒数	小規模(%) (400未満)	中規模(%) (400-699)	大規模(%) (700以上)	合計(%)
	1	7(77.8)	26(70.3)	17(60.7)	50(67.6)
	2	1(11.1)	9(24.3)	6(21.4)	16(21.6)
	3	1(11.1)	1(2.7)	4(14.3)	6(8.1)
	4	0(0.0)	1(2.7)	0(0.0)	1(1.4)
	6	0(0.0)	0(0.0)	1(3.6)	1(1.4)
	合計	9(100.0)	37(100.0)	28(100.0)	74(100.0)
高等学校	生徒数	小規模(%) (700未満)	中規模(%) (700-1299)	大規模(%) (1300以上)	合計(%)
	1	5(83.3)	7(77.8)	6(66.7)	18(75.0)
	2	1(16.7)	1(11.1)	3(33.3)	5(20.8)
	3	0(0.0)	1(11.1)	0(0.0)	1(4.2)
	合計	6(100.0)	9(100.0)	9(100.0)	24(100.0)

注：合計が表9の「有り」の数より少ないのは、保健室登校有りと回答する一方、その人数について無回答があったためである。

2) 保健室利用者調査の結果

① 保健室利用者数 (表11、12)

[小学校]

小学校回答校328校の1週間の保健室利用者総数は56,528人であり、1校あたり1日の利用者数の平均は28.7人である。

1・2年、3・4年では利用者数は余り変化しないが、5・6年では増加する。いずれの学年においても女子が上回り、1・2年では女子が男子の約1.4倍、5・6年になると女子は男子の約1.9倍になる。

[中学校]

中学校回答校329校の1週間の保健室利用者総数は61,691人であり、1校あたり1日の利用者数の平均は31.3人である。

学年が進むにつれ利用者数は増え、3年で急増し全利用者数の約半数(46.3%)になる。性別では1、2年は女子が男子を上回っているが、3年では男子が女子をやや上回る。

[高等学校]

高等学校回答校328校の1週間の保健室利用者総数は62,393人であり、1校あたり1日の利用者の平均は31.7人である。

学年が進むにつれ利用者数は増える。1、2年は女子の利用者が男子より多いが、3年ではほぼ同数である。

[全体]

小学校、中学校、高等学校の全体を通じて見ると、回答校985校に総数で180,612人、1校あたり1日平均30.6人の児童生徒が来室した。学年が上がると来室者が増え、全体としては女子の比率が高い。

表11 保健室利用者数

小 学 校	性 別	1、2年(%)	3、4年(%)	5、6年(%)	不明(%)	合計(%)
	1.男	5,589(9.9)	5,803(10.3)	8,934(15.8)	30(0.1)	20,356(36.0)
	2.女	8,080(14.3)	9,441(16.7)	16,824(29.8)	37(0.1)	34,382(60.8)
	0.不明	315(0.6)	508(0.9)	920(1.6)	47(0.1)	1,790(3.2)
	合 計	13,984(24.7)	15,752(27.9)	26,678(47.2)	114(0.2)	56,528(100.0)
中 学 校	性 別	1年(%)	2年(%)	3年(%)	不明(%)	合計(%)
	1.男	5,254(8.5)	9,010(14.6)	14,660(23.8)	453(0.7)	29,377(47.6)
	2.女	7,067(11.5)	10,606(17.2)	13,821(22.4)	602(1.0)	32,096(52.0)
	0.不明	37(0.1)	61(0.1)	77(0.1)	43(0.1)	218(0.4)
	合 計	12,358(20.0)	19,677(31.9)	28,558(46.3)	1,098(1.8)	61,691(100.0)
高 等 学 校	性 別	1年(%)	2年(%)	3年(%)	不明(%)	合計(%)
	1.男	8,043(12.9)	9,648(15.5)	11,450(18.4)	39(0.0)	29,180(46.8)
	2.女	10,001(16.0)	11,288(18.1)	11,716(18.8)	46(0.1)	33,051(53.0)
	0.不明	34(0.1)	51(0.1)	48(0.1)	29(0.1)	162(0.3)
	合 計	18,078(29.0)	20,987(33.6)	23,214(37.2)	114(0.2)	62,393(100.0)

表12 1校1日あたり保健室利用者数

小 学 校	中 学 校	高等学校	平 均
28.7	31.3	31.7	30.6

② 来室時間（表13）

〔小学校〕

小学校の来室時間は多い順に、休み時間（36.2%）、授業中（19.1%）、昼休み・給食（18.3%）、始業前（18.1%）である。

全学年を通じて休み時間中が一番多いが、1・2年では始業前と授業中が比較的多く、高学年では授業中が減る。放課後は5・6年の来室割合がやや多くなる。

男子は女子より授業中の来室割合が多く、休み時間が少ない。

〔中学校〕

中学校では多い順に、休み時間（51.8%）、昼休み・給食（17.2%）、授業中（14.2%）である。

学年は上がると休み時間と授業中がやや増え、放課後がやや減る。

男子は女子より休み時間がやや多く、昼休み・給食がやや少ない。

〔高等学校〕

高等学校では多い順に休み時間（43.4%）、昼休み（21.6%）、授業中（17.4%）となる。

学年差はあまり見られないが、3年生では授業中がやや増え、放課後がやや減る。

性差としては、男子は昼休みがやや多く、女子は休み時間がやや多い。

〔全体〕

全体的には午前午後の休み時間や昼休み時間の来室が多い。中学3年、高校3年の放課後來室は少ない。

表13 来室時間

小学校	順位 項目	合 計(%)	学 1、2年(%)	3、4年(%)	年 5、6年(%)	性 小 男(%)	別 小 女(%)
	1. 休み時間	20,365(36.2)	4,699(33.7)	5,425(34.5)	10,241(38.5)	6,904(34.1)	12,817(37.4)
	2. 授業中	10,726(19.1)	3,213(23.0)	3,654(23.2)	3,859(14.5)	4,426(21.8)	5,999(17.5)
	3. 昼休み・給食	10,305(18.3)	2,222(15.9)	2,858(18.2)	5,225(19.6)	3,665(18.1)	6,273(18.3)
	4. 朝(始業前)	10,174(18.1)	2,906(20.8)	2,581(16.4)	4,687(17.6)	3,815(18.8)	6,088(17.8)
	5. 放課後	4,718(8.4)	907(6.5)	1,203(7.7)	2,608(9.8)	1,464(7.2)	3,111(9.1)
	合 計	56,288(100.0)	13,947(100.0)	15,721(100.0)	26,620(100.0)	20,274(100.0)	34,288(100.0)
中学校	順位 項目	合 計(%)	学 1年(%)	2年(%)	年 3年(%)	性 中 男(%)	別 中 女(%)
	1. 休み時間	31,256(51.8)	6,113(49.6)	9,821(50.2)	15,322(53.9)	15,448(53.6)	15,732(50.1)
	2. 昼休み・給食	10,397(17.2)	2,106(17.1)	3,501(17.9)	4,790(16.8)	4,638(16.1)	5,729(18.3)
	3. 授業中	8,573(14.2)	1,590(12.9)	2,705(13.8)	4,278(15.0)	4,325(15.0)	4,227(13.5)
	4. 放課後	5,546(9.2)	1,403(11.4)	2,019(10.3)	2,124(7.5)	2,434(8.5)	3,102(9.9)
	5. 始業前	4,556(7.6)	1,106(9.0)	1,527(7.8)	1,923(6.8)	1,952(6.8)	2,581(8.2)
	合 計	60,328(100.0)	12,318(100.0)	19,573(100.0)	28,437(100.0)	28,797(100.0)	31,371(100.0)
高等学校	順位 項目	合 計(%)	学 1年(%)	2年(%)	年 3年(%)	性 高 男(%)	別 高 女(%)
	1. 休み時間	26,930(43.4)	7,923(44.0)	9,039(43.2)	9,968(43.1)	12,405(42.7)	14,482(44.0)
	2. 昼休み	13,400(21.6)	3,736(20.8)	4,554(21.8)	5,110(22.1)	6,637(22.9)	6,737(20.5)
	3. 授業中	10,828(17.4)	2,902(16.1)	3,462(16.6)	4,464(19.3)	5,225(18.0)	5,576(16.9)
	4. 放課後	7,060(11.4)	2,279(12.7)	2,671(12.8)	2,110(9.1)	3,085(10.6)	3,968(12.1)
	5. 始業前	3,837(6.2)	1,161(6.4)	1,186(5.7)	1,490(6.4)	1,692(5.8)	2,136(6.5)
	合 計	62,055(100.0)	18,001(100.0)	20,912(100.0)	23,142(100.0)	29,044(100.0)	32,899(100.0)

③ 来室理由 (表14)

保健室に入ってきた児童生徒に、来室の理由を保健室利用カードに記入させた。

[小学校]

小学生の来室理由が多い順に、係・当番 (25.9%)、けが・鼻血 (21.4%)、付添い (19.1%)、気持ち悪い・痛い苦しい (12.2%) である。以下は少ない。なお、お話と先生あのね聞いてを合わせると5.2%になる。

5・6年では係・当番による来室が増える。話に来る児童が5・6年ではやや増える (1・2年2.6%→5・6年4.7%)。

性別では、男子はけがや鼻血の手当に来る率が最も多く (27.0%)、女子は係・当番による来室が最も多い (27.2%)。付添いも女子に多い (男子16.2%、女子20.9%)。

[中学校]

中学校では多い順に体調悪い (20.4%)、付添い (19.3%)、けがの処置 (13.4%) であり、委員会活動 (9.7%)、測定 (7.8%) と続く。お喋り (5.6%)、なんとなく (5.5%) も割合に多く、これに困ったことあり聞いてを合わせると12.4%にのぼり、これらは情緒の安定を求めて来室していると思われるが、来室者の8人に1人に当たる。

お喋り、なんとなく、困ったことあり聞いての合計は3年生では多くなり17.3%と来室者の6人に1人になる。けがの処置、委員会活動は3年生では少なくなる。

性差としては、付添い (男子16.9%、女子21.5%)、委員会活動 (男子6.6%、女子12.5%) は女子に多く、けがの処置は男子に多い (男子15.7%、女子11.2%)。

[高等学校]

高等学校では多い順に体調悪い (24.4%)、付添い (18.7%)、けがの処置 (11.4%) である。情緒の安定を求めて来室すると考えられるお喋り、なんとなく、困ったことあり聞いてを合わせると9.4%になり、これは来室者の11人に1人の割合である。

お喋り、なんとなく、困ったことあり聞いての合計は学年が上がると増し、3年では12.4%になる (1年では6.1%)。他の学年差は顕著でない。

性差としては付添いが女子に多く (男子15.1%、女子21.8%)、けがの処置 (男子13.7%、女子9.4%)、測定 (男子8.5%、女子4.3%) は男子に多い。

[全体]

全体としては外傷は小学校に多く、中学校及び高等学校ではやや減る傾向にある。その代わりに体調が悪いとの訴えが増える。付添いはいずれの校種でも2割近い。

表14 来室理由

	順位 項目	学 年				性 別	
		合 計(%)	1、2年(%)	3、4年(%)	5、6年(%)	小 男(%)	小 女(%)
小 学 校	1. かかり・とうばん	14,573(25.9)	3,280(23.7)	3,290(20.9)	8,003(30.1)	4,846(23.9)	9,310(27.2)
	2. けがやはなちのであて	12,010(21.4)	3,735(27.0)	3,890(24.8)	4,385(16.4)	5,481(27.0)	6,204(18.1)
	3. 付添い・ついてきた	10,760(19.1)	2,572(18.6)	3,094(19.7)	5,094(19.1)	3,279(16.2)	7,168(20.9)
	4. 気持ち悪い・痛い苦しい	6,874(12.2)	1,992(14.4)	2,310(14.7)	2,572(9.6)	2,429(12.0)	4,262(12.5)
	5. 連絡・用があって	2,616(4.7)	558(4.0)	685(4.4)	1,373(5.2)	905(4.5)	1,657(4.8)
	6. お話・おしゃべり	2,045(3.6)	362(2.6)	442(2.8)	1,241(4.7)	558(2.8)	1,446(4.2)
	7. はからせて	1,080(1.9)	157(1.1)	295(1.9)	628(2.4)	378(1.9)	664(1.9)
	8. 先生あのねきいて	893(1.6)	166(1.2)	235(1.5)	492(1.8)	280(1.4)	594(1.7)
	9. よばれたから	885(1.6)	178(1.3)	270(1.7)	437(1.6)	324(1.5)	379(1.1)
	10. おみまい	738(1.3)	151(1.1)	226(1.4)	361(1.4)	263(1.3)	443(1.3)
	11. かして・みせて	489(0.9)	82(0.6)	105(0.7)	302(1.1)	165(0.8)	312(0.9)
	12. くすりがほしい	286(0.5)	28(0.2)	71(0.5)	187(0.7)	75(0.4)	200(0.5)
	13. ねたい・やすみたい	235(0.4)	54(0.4)	64(0.4)	117(0.4)	94(0.5)	139(0.4)
	その他	2,718(4.8)	541(3.9)	707(4.5)	1,470(5.5)	1,183(5.9)	1,438(4.2)
	合 計	56,202(100.0)	13,856(100.0)	15,684(100.0)	26,662(100.0)	20,265(100.0)	34,216(100.0)
	順位 項目	学 年			性 別		
		合 計(%)	1年(%)	2年(%)	3年(%)	中 男(%)	中 女(%)
中 学 校	1. 体調悪い・痛む苦しい	12,348(20.4)	2,617(21.2)	4,207(21.4)	5,524(19.4)	5,867(20.3)	6,459(20.5)
	2. 友達のつきあい付添い	11,662(19.3)	2,546(20.6)	4,045(20.6)	5,071(17.8)	4,872(16.9)	6,761(21.5)
	3. 出血やけがの処置	8,081(13.4)	2,193(17.8)	2,627(13.4)	3,261(11.4)	4,546(15.7)	3,528(11.2)
	4. 委員会活動	5,843(9.7)	1,658(13.4)	2,164(11.0)	2,021(7.1)	1,900(6.6)	3,924(12.5)
	5. 身長・体重・視力測る	4,720(7.8)	709(5.7)	1,611(8.2)	2,400(8.4)	3,129(10.8)	1,582(5.0)
	6. 仲間や先生とお喋り	3,402(5.6)	322(2.6)	779(4.0)	2,301(8.1)	1,479(5.1)	1,918(6.1)
	7. なんとなく	3,315(5.5)	280(2.3)	837(4.3)	2,198(7.7)	1,985(6.9)	1,322(4.2)
	8. お見舞い	1,329(2.2)	234(1.9)	436(2.2)	659(2.3)	474(1.6)	845(2.7)
	9. 爪切・体温手洗うがい	1,322(2.2)	224(1.8)	421(2.1)	677(2.4)	617(2.1)	702(2.2)
	10. 連絡、打ち合せ	975(1.6)	259(2.1)	322(1.6)	394(1.4)	377(1.3)	510(1.6)
	11. 薬がほしい	972(1.6)	122(1.0)	295(1.5)	555(1.9)	529(1.8)	441(1.4)
	12. 呼ばれたから	804(1.3)	210(1.7)	322(1.6)	272(1.0)	433(1.5)	369(1.2)
	13. 困った事あり聞いて	790(1.3)	156(1.3)	203(1.0)	431(1.5)	236(0.8)	551(1.8)
	14. 休養したい	678(1.1)	42(0.3)	225(1.1)	411(1.4)	377(1.3)	301(1.0)
	15. 自習や時間待ち	344(0.6)	14(0.1)	62(0.3)	268(0.9)	196(0.7)	146(0.4)
	16. 資料や本を見る	320(0.5)	42(0.3)	144(0.7)	134(0.5)	168(0.6)	150(0.5)
	その他	3,600(5.9)	708(5.7)	940(4.8)	1,952(6.8)	1,627(5.6)	1,965(6.2)
	合 計	60,505(100.0)	12,336(100.0)	19,640(100.0)	28,529(100.0)	28,812(100.0)	31,474(100.0)
	順位 項目	学 年			性 別		
		合 計(%)	1年(%)	2年(%)	3年(%)	高 男(%)	高 女(%)
高 等 学 校	1. 体調悪い・痛む苦しい	15,169(24.4)	4,858(26.9)	4,906(23.4)	5,405(23.3)	7,236(24.9)	7,915(24.0)
	2. 友達のつきあい付添い	11,622(18.7)	3,745(20.8)	3,864(18.4)	4,013(17.3)	4,399(15.1)	7,196(21.8)
	3. 出血やけがの処置	7,080(11.4)	2,026(11.2)	2,421(11.6)	2,633(11.4)	3,986(13.7)	3,090(9.4)
	4. 身長・体重・視力測る	3,919(6.3)	1,354(7.5)	1,319(6.3)	1,246(5.4)	2,485(8.5)	1,426(4.3)
	5. 委員会活動	2,961(4.8)	894(5.0)	1,172(5.6)	895(3.9)	1,140(3.9)	1,815(5.5)
	6. 仲間や先生とお喋り	2,599(4.2)	451(2.5)	868(4.1)	1,280(5.5)	1,317(4.5)	1,280(3.9)
	7. 薬がほしい	2,479(4.0)	562(3.1)	840(4.0)	1,077(4.6)	1,265(4.3)	1,212(3.7)
	8. なんとなく	2,114(3.4)	412(2.3)	607(2.9)	1,095(4.7)	1,271(4.4)	840(2.5)
	9. 爪切・体温手洗うがい	1,959(3.1)	485(2.7)	666(3.2)	808(3.5)	913(3.1)	1,043(3.2)
	10. お見舞い	1,528(2.5)	466(2.6)	538(2.6)	524(2.3)	256(0.9)	1,265(3.8)
	11. 休養したい	1,361(2.2)	358(2.0)	431(2.1)	572(2.5)	634(2.2)	724(2.2)
	12. 呼ばれたから	1,275(2.1)	410(2.3)	594(2.8)	271(1.2)	700(2.4)	573(1.7)
	13. 連絡、打ち合せ	1,185(1.9)	358(2.0)	427(2.0)	400(1.7)	551(1.9)	633(1.9)
	14. 困った事あり聞いて	1,095(1.8)	237(1.3)	359(1.7)	499(2.2)	358(1.2)	736(2.2)
	15. 自習や時間待ち	668(1.1)	97(0.5)	189(0.9)	382(1.6)	348(1.2)	319(1.0)
	16. 資料や本を見る	341(0.5)	70(0.4)	128(0.6)	143(0.6)	105(0.4)	236(0.7)
	その他	4,837(7.8)	1,265(7.0)	1,624(7.8)	1,948(8.4)	2,148(7.4)	2,672(8.1)
	合 計	62,192(100.0)	18,048(100.0)	20,953(100.0)	23,191(100.0)	29,112(100.0)	32,975(100.0)

④ 記録の必要の有無（表15）

保健室へ来室した者のうちある程度時間をかけて対応する必要があると養護教諭が判断した者のみ「記録の必要有」として記録した。⑤以下については、この「記録の必要有」とされた者についての分析である

〔小学校〕

小学校で「記録の必要有」は全体としては半数強であるが、5・6年ではやや少なくなる。また、女子では「記録の必要有」が男子より少ない（男子57.6%、女子49.9%）。

〔中学校〕

中学校でも「記録の必要有」は半数強であり、学年が進むと少なくなる。性差はあまり見られない。

〔高等学校〕

「記録の必要有」は約6割である。学年差は認められない。女子では「記録の必要有」が男子より少ない（男子60.4%、女子55.9%）。

〔全体〕

養護教諭が記録の必要を認めたケースは約5割から6割である。女子の場合やや少ない傾向にあるのは、委員会活動や付添いが多いためと思われる。

表15 記録の必要の有無

小学校	順位 項目	合 計 (%)	学 1、2年 (%)	3、4年 (%)	年 5、6年 (%)	性 小 男 (%)	別 小 女 (%)
	1. 必要有	29,541 (52.8)	7,576 (54.8)	8,605 (55.2)	13,360 (50.5)	11,586 (57.6)	17,006 (49.9)
	2. 必要無	26,375 (47.2)	6,261 (45.2)	6,997 (44.8)	13,117 (49.5)	8,542 (42.4)	17,073 (50.1)
	合 計	55,916 (100.0)	13,837 (100.0)	15,602 (100.0)	26,477 (100.0)	20,128 (100.0)	34,079 (100.0)
中学校	順位 項目	合 計 (%)	学 1年 (%)	2年 (%)	年 3年 (%)	性 中 男 (%)	別 中 女 (%)
	1. 必要有	32,339 (54.0)	6,982 (57.2)	10,625 (54.7)	14,732 (52.2)	15,727 (55.0)	16,548 (53.2)
	2. 必要無	27,501 (46.0)	5,214 (42.8)	8,783 (45.3)	13,504 (47.8)	12,847 (45.0)	14,578 (46.8)
	合 計	59,840 (100.0)	12,196 (100.0)	19,408 (100.0)	28,236 (100.0)	28,574 (100.0)	31,126 (100.0)
高等学校	順位 項目	合 計 (%)	学 1年 (%)	2年 (%)	年 3年 (%)	性 高 男 (%)	別 高 女 (%)
	1. 必要有	35,899 (58.0)	10,517 (58.6)	12,116 (58.2)	13,266 (57.4)	17,503 (60.4)	18,342 (55.9)
	2. 必要無	25,967 (42.0)	7,424 (41.4)	8,705 (41.8)	9,838 (42.6)	11,454 (39.6)	14,459 (44.1)
	合 計	61,866 (100.0)	17,941 (100.0)	20,821 (100.0)	23,104 (100.0)	28,957 (100.0)	32,801 (100.0)

⑤ 養護教諭の判断 (表16)

「記録の必要有」とされた者について養護教諭がどのような取扱いが必要かを判断した。全ての校種で救急処置が最も多く7割前後を占め、次いで指導・連絡、相談となっている。

表16 記録の必要有についての養護教諭の判断

	小 学 校(%)	中 学 校(%)	高等学校(%)	合 計
救 急 処 置	20,017(67.8)	21,353(66.0)	25,806(71.9)	67,176(68.7)
相 談	3,547(12.0)	6,514(20.1)	7,380(20.6)	17,441(17.8)
指 導 ・ 連 絡	12,931(43.8)	14,980(46.3)	15,313(42.7)	43,224(44.2)
そ の 他	1,135(5.7)	1,700(5.3)	1,676(4.7)	4,511(4.6)
記録の必要有 の 件 数	29,541	32,339	35,899	132,352

注1：()内の比率は最下欄の記録の必要有の件数に対する比率である。

注2：同一ケースについて、複数の判断が成り立つ場合があるので計は100%を超える。

a 救急処置が必要と判断したもの（表16、17）

〔小学校〕

小学校では養護教諭が救急処置と判断したケースは、20,017に上った。これは「記録の必要有」とされたケースの67.8%にあたる。そのうち、最も多いのが外科的処置（59.1%）であり、特に男子に多い（男子64.9%、女子55.6%）。次いで、頭痛、風邪、胃腸症状と内科的訴えが続くが、不定愁訴と判断される例も3.1%あった。学年差はあまり見られない。

〔中学校〕

中学校では21,353ケース（「記録の必要有」の66.0%）で、外科的処置（38.3%）が最も多く、胃腸症状（16.3%）、風邪（16.0%）、頭痛（11.8%）と続く。不定愁訴は5位で5.4%である。

学年が上がると、外科が減り胃腸症状が増えることが特徴的である。

性別では男子に外科が多い。

〔高等学校〕

高等学校では25,806ケース（「記録の必要有」の71.9%）であり、外科的処置（28.0%）が最も多く、胃腸症状（24.4%）、風邪（18.9%）と続く。不定愁訴は5位で4.2%である。

風邪は1、2年生に多い。

性差としては外科的処置が男子に多い。

〔全体〕

全体では「記録の必要有」の7割前後が救急処置のケースと判断された。小、中、高と校種が上がるにしたがって外科的処置という判断が減り、内科的な問題が多くなる。不定愁訴は3%～5%程度である。

表17 養護教諭の判断—救急処置

	順位 項目	学 年				性 別	
		合 計(%)	1、2年(%)	3、4年(%)	5、6年(%)	小 男(%)	別 小 女(%)
小 学 校	1.外科に関すること	11,840(59.1)	3,560(60.9)	3,848(58.7)	4,432(58.3)	5,354(64.9)	6,151(55.6)
	2.頭痛	2,168(10.9)	633(10.8)	726(11.1)	809(10.5)	740(9.0)	1,396(12.6)
	3.かぜ	1,550(7.7)	378(6.5)	518(7.9)	654(8.5)	522(6.3)	971(8.8)
	4.胃腸症状	1,535(7.6)	494(8.4)	477(7.3)	564(7.3)	576(7.0)	915(8.3)
	5.不定愁訴	624(3.1)	126(2.2)	208(3.2)	290(4.0)	188(2.3)	415(3.7)
	6.発熱	522(2.6)	184(3.1)	171(2.6)	167(2.3)	223(2.7)	288(2.6)
	7.眼科	362(1.8)	106(1.8)	127(1.9)	129(1.6)	154(1.9)	200(1.8)
	8.歯科	280(1.5)	71(1.2)	105(1.6)	104(1.4)	46(0.5)	63(0.6)
	9.耳鼻科	199(1.0)	78(1.3)	62(0.9)	59(0.8)	95(1.1)	97(0.9)
	10.疲労	185(0.9)	38(0.7)	59(0.9)	88(1.2)	72(0.9)	109(1.0)
	11.アレルギー	112(0.6)	30(0.5)	41(0.6)	41(0.5)	42(0.5)	68(0.6)
	その他	640(3.2)	155(2.6)	217(3.3)	268(3.6)	236(2.9)	386(3.5)
合 計		20,017(100.0)	5,853(100.0)	6,559(100.0)	7,605(100.0)	8,248(100.0)	11,059(100.0)
中 学 校	順位 項目	合 計(%)	学 1年(%)	年 2年(%)	3年(%)	性 中 男(%)	別 中 女(%)
	1.外科に関すること	8,186(38.3)	2,223(45.5)	2,681(37.5)	3,282(35.2)	4,565(41.9)	3,614(34.7)
	2.胃腸症状	3,470(16.3)	662(13.6)	1,084(15.2)	1,724(18.5)	1,801(16.5)	1,644(15.8)
	3.かぜ	3,416(16.0)	698(14.3)	1,182(16.6)	1,536(16.4)	1,601(14.7)	1,810(17.4)
	4.頭痛	2,519(11.8)	597(12.2)	949(13.3)	973(10.4)	1,277(11.7)	1,241(11.9)
	5.不定愁訴	1,143(5.4)	196(4.0)	410(5.7)	537(5.8)	544(5.0)	598(5.8)
	6.発熱	477(2.2)	113(2.3)	178(2.5)	186(2.0)	253(2.3)	222(2.1)
	7.疲労	394(1.8)	47(1.0)	129(1.8)	218(2.3)	201(1.9)	192(1.8)
	8.眼科	386(1.8)	82(1.7)	118(1.7)	186(2.0)	170(1.6)	209(2.0)
	9.耳鼻科	148(0.7)	41(0.8)	35(0.5)	72(0.8)	68(0.6)	79(0.8)
	10.アレルギー	125(0.6)	28(0.6)	40(0.6)	57(0.6)	50(0.5)	75(0.7)
	11.歯科	106(0.5)	16(0.3)	26(0.4)	64(0.7)	55(0.5)	50(0.5)
その他	983(4.6)	181(3.7)	307(4.3)	495(5.3)	307(2.8)	673(6.5)	
合 計		21,353(100.0)	4,884(100.0)	7,139(100.0)	9,330(100.0)	10,892(100.0)	10,407(100.0)
高 等 学 校	順位 項目	合 計(%)	学 1年(%)	年 2年(%)	3年(%)	性 高 男(%)	別 高 女(%)
	1.外科に関すること	7,214(28.0)	2,044(26.5)	2,440(28.5)	2,730(28.6)	4,103(31.9)	3,103(24.1)
	2.胃腸症状	6,301(24.4)	1,771(23.0)	2,052(24.0)	2,478(26.0)	3,130(24.3)	3,156(24.5)
	3.かぜ	4,881(18.9)	1,633(21.2)	1,653(19.3)	1,595(16.7)	2,413(18.7)	2,462(19.0)
	4.頭痛	1,935(7.5)	650(8.6)	614(7.2)	671(7.0)	980(7.6)	953(7.4)
	5.不定愁訴	1,072(4.2)	368(4.8)	339(4.0)	365(3.8)	521(4.0)	550(4.3)
	6.発熱	657(2.5)	220(2.9)	204(2.4)	233(2.4)	364(2.8)	290(2.3)
	7.眼科	540(2.2)	143(1.9)	178(2.0)	219(2.3)	242(1.9)	290(2.2)
	8.疲労	535(2.1)	130(1.7)	154(1.8)	251(2.6)	307(2.4)	228(1.8)
	9.歯科	312(1.2)	79(1.0)	90(1.0)	143(1.5)	158(1.2)	153(1.3)
	10.アレルギー	185(0.7)	49(0.6)	62(0.7)	74(0.8)	88(0.7)	97(0.7)
	11.耳鼻科	175(0.6)	57(0.7)	61(0.7)	57(0.6)	93(0.8)	81(0.6)
その他	1,999(7.7)	544(7.1)	717(8.4)	738(7.7)	476(3.7)	1,521(11.8)	
合 計		25,806(100.0)	7,688(100.0)	8,564(100.0)	9,554(100.0)	12,875(100.0)	12,884(100.0)

b 相談が必要と判断したもの（表16、18）

〔小学校〕

小学校で相談のケースと判断されたのは3,547（「記録の必要有」の12.0％）であった。学年では5・6年が多く、相談ケース全体の53.7％に上る。相談ケースの中では発育・健康状態の相談が最も多い（42.6％）。学校生活（13.3％）、友人関係（10.3％）と続く。その他5％前後の項目（漠然とした悩み、家族・家庭、児童会活動、クラブ・部活）も多く、多岐にわたる。

学年別では5・6年で発育・健康状態が減り、児童会活動とクラブ・部活の増えるのが特徴的である。

女子の相談件数は男子の2倍近い。

〔中学校〕

中学校の相談ケースは6,514（「記録の必要有」の20.1％）で、そのうち発育・健康状態（39.1％）が最も多く、友人関係（11.4％）、学校生活（10.2％）が続く。学習・学業、進路等、漠然とした悩み、家族・家庭、異性関係、クラブ・部活も無視出来ない。

3年では発育・健康状態や友人関係、クラブ・部活が減り、進路等、学校生活、学習・学業が増える。特に、進路等は12.4％に上る。

性差としては、友人関係、家族・家庭、異性関係は女子での比率が高い。

〔高等学校〕

高等学校の相談ケースは7,380（「記録の必要有」の20.6％）であり、発育・健康状態（48.6％）が最も多く、その他の項目の多くは約8％から約4％に散らばっている。

3年では発育・健康状態が減り、進路等が増える。

友人関係、異性関係、家族・家庭は女子に多く、その他の学校生活、学習・学業、漠然とした悩みは男子に多い。

〔全体〕

「記録の必要有」のうち相談ケースと判断されたのは小学校では12％、中学校、高等学校では約20％であった。そのうち発育・健康状態が4割から5割を占めるが、その他の内容も一定の割合を占め、相談内容は多岐にわたっている。中学3年および高等学校3年では進路相談が増える。

表18 養護教諭の判断—相談

	順位 項 目	学 年				性 別	
		合 計(%)	1、2年(%)	3、4年(%)	5、6年(%)	小 男(%)	小 女(%)
小 学 校	1.発育・健康状態	1,510(42.6)	311(49.6)	486(47.9)	713(37.4)	535(43.1)	942(43.0)
	2.その他の学校生活	471(13.3)	95(15.2)	132(13.0)	244(12.8)	173(13.9)	283(12.9)
	3.友人関係	364(10.3)	58(9.2)	107(10.5)	199(10.5)	104(8.4)	250(11.4)
	4.漠然とした悩み	189(5.3)	35(5.6)	64(6.3)	90(4.7)	59(4.8)	128(5.8)
	5.家族・家庭	182(5.1)	33(5.3)	59(5.8)	90(4.7)	70(5.6)	108(4.9)
	6.児童会活動	164(4.6)	6(0.9)	8(0.8)	150(7.9)	58(4.7)	78(3.6)
	7.学習・学業	146(4.1)	26(4.1)	47(4.6)	73(3.8)	56(4.5)	81(3.7)
	8.クラブ・部活動	127(3.6)	10(1.6)	14(1.4)	103(5.4)	38(3.1)	86(3.9)
	9.稽古・塾等学校外活動	40(1.1)	5(0.8)	10(1.0)	25(1.3)	16(1.3)	23(1.0)
	10.異性関係	27(0.7)	2(0.3)	0()	25(1.3)	8(0.6)	19(0.9)
	11.進路等	6(0.2)	0()	0()	6(0.3)	2(0.2)	4(0.2)
	12.アルバイト	6(0.2)	3(0.5)	2(0.2)	1(0.1)	2(0.1)	4(0.2)
	その他	315(8.9)	43(6.9)	86(8.5)	186(9.8)	121(9.7)	186(8.5)
	合 計	3,547(100.0)	627(100.0)	1,015(100.0)	1,905(100.0)	1,242(100.0)	2,192(100.0)
中 学 校	順位 項 目	学 年				性 別	
		合 計(%)	1年(%)	2年(%)	3年(%)	中 男(%)	中 女(%)
	1.発育・健康状態	2,546(39.1)	504(45.9)	947(46.4)	1,095(32.4)	1,227(40.8)	1,314(37.6)
	2.友人関係	741(11.4)	184(16.8)	223(10.9)	334(9.9)	253(8.4)	485(13.9)
	3.その他の学校生活	663(10.2)	85(7.7)	234(11.5)	344(10.2)	332(11.1)	330(9.5)
	4.学習・学業	501(7.7)	67(6.1)	103(5.1)	331(9.8)	247(8.2)	254(7.3)
	5.進路等	440(6.7)	3(0.3)	18(0.9)	419(12.4)	222(7.4)	216(6.2)
	6.漠然とした悩み	380(5.8)	51(4.6)	103(5.1)	226(6.7)	191(6.4)	187(5.3)
	7.家族・家庭	312(4.8)	38(3.5)	84(4.1)	190(5.6)	106(3.5)	205(5.9)
	8.異性関係	225(3.4)	19(1.7)	67(3.3)	139(4.1)	64(2.1)	161(4.6)
	9.クラブ・部活動	169(2.6)	53(4.8)	92(4.5)	24(0.7)	83(2.8)	85(2.4)
	10.生徒会活動	63(1.0)	9(0.8)	22(1.1)	32(0.9)	39(1.3)	24(0.7)
	11.稽古・塾等学校外活動	27(0.4)	6(0.6)	9(0.4)	12(0.4)	13(0.4)	14(0.4)
	12.アルバイト	12(0.2)	3(0.3)	2(0.1)	7(0.2)	5(0.2)	6(0.2)
	その他	435(6.7)	75(6.8)	135(6.6)	225(6.7)	223(7.4)	210(6.0)
	合 計	6,514(100.0)	1,097(100.0)	2,039(100.0)	3,378(100.0)	3,005(100.0)	3,491(100.0)
高 等 学 校	順位 項 目	学 年				性 別	
		合 計(%)	1年(%)	2年(%)	3年(%)	高 男(%)	高 女(%)
	1.発育・健康状態	3,590(48.6)	1,081(53.4)	1,189(50.2)	1,320(44.2)	1,536(47.1)	2,048(50.0)
	2.進路等	569(7.7)	17(0.8)	45(1.9)	507(17.0)	234(7.2)	334(8.1)
	3.その他の学校生活	474(6.4)	142(7.0)	174(7.3)	158(5.3)	255(7.8)	218(5.3)
	4.学習・学業	473(6.4)	113(5.6)	155(6.6)	205(6.9)	268(8.2)	203(5.0)
	5.友人関係	366(5.0)	116(5.7)	139(5.9)	111(3.7)	101(3.1)	265(6.5)
	6.クラブ・部活動	309(4.2)	146(7.2)	126(5.3)	37(1.2)	168(5.2)	139(3.4)
	7.異性関係	293(4.0)	55(2.7)	103(4.3)	135(4.5)	90(2.7)	203(5.0)
	8.漠然とした悩み	275(3.7)	77(3.8)	89(3.8)	109(3.7)	161(4.9)	113(2.8)
	9.家族・家庭	271(3.7)	79(3.9)	84(3.6)	108(3.6)	85(2.6)	182(4.4)
	10.生徒会活動	70(0.9)	24(1.2)	27(1.1)	19(0.6)	16(0.5)	54(1.3)
	11.アルバイト	53(0.7)	9(0.5)	21(0.9)	23(0.8)	29(0.9)	22(0.5)
	12.稽古・塾等学校外活動	34(0.5)	8(0.4)	17(0.7)	9(0.3)	23(0.7)	11(0.2)
	その他	603(8.2)	157(7.8)	200(8.4)	246(8.2)	296(9.1)	307(7.5)
	合 計	7,380(100.0)	2,024(100.0)	2,369(100.0)	2,987(100.0)	3,262(100.0)	4,099(100.0)

c 指導・連絡が必要と判断したもの（表16、19）

〔小学校〕

小学校で指導・連絡と判断されたのは12,931（「記録の必要有」の43.8％）に上る。そのうち5・6年が約半数を占める。保健指導等が全体では最も多い（44.6％）。委員会（25.6％）、連絡（19.7％）が次ぐ。生徒指導は小学校ではまだ少ない（2.4％）。

5・6年では保健指導等と連絡が減り、委員会が大幅に増える。

性別では実数で見ると全体的に女子が男子の1.5倍と多い。

〔中学校〕

中学校の指導・連絡と判断されたのは14,980（「記録の必要有」の46.3％）であった。保健指導（50.9％）が最も多く、次いで委員会（18.4％）、生徒指導（12.0％）、連絡（11.9％）であった。

3年では委員会が減り生徒指導が増えている。

性別としては保健指導等と生徒指導は男子に多く、委員会は女子に多い。

〔高等学校〕

高等学校の指導連絡は15,313（「記録の必要有」の42.7％）であった。そのうち保健指導等（61.7％）が最も多く、委員会（11.6％）、連絡（10.5％）が続く。

学年差は顕著でなく、3年で保健指導等が若干増え、委員会が若干減る程度である。

委員会が女子に多く、生徒指導が男子にやや多い。

〔全体〕

「記録の必要有」の4割強が指導・連絡と判断されている。中学校で生徒指導ケースの多いことが特徴的である。小、中、高と上がるにつれ保健指導等の比率が高まる。

注：ここでいう生徒指導とは、保健安全指導、相談・援助以外の生徒指導をさす。

表19 養護教諭の判断—指導・連絡

	順位 項目	学 年				性 別	
		合 計 (%)	1、2 年 (%)	3、4 年 (%)	5、6 年 (%)	小 男 (%)	小 女 (%)
小 学 校	1. 保健指導等	5,770 (44.6)	1,553 (54.8)	1,869 (56.1)	2,348 (34.7)	2,467 (49.6)	3,216 (41.9)
	2. 委員会	3,307 (25.6)	205 (7.2)	239 (7.2)	2,863 (42.3)	902 (18.1)	2,280 (29.7)
	3. 連絡	2,556 (19.7)	789 (27.8)	829 (24.9)	938 (13.9)	1,098 (22.1)	1,408 (18.3)
	4. 届・証明等	396 (3.1)	113 (4.0)	132 (4.0)	151 (2.2)	138 (2.8)	257 (3.4)
	5. 生徒指導	310 (2.4)	49 (1.7)	105 (3.1)	156 (2.3)	180 (3.6)	125 (1.6)
	6. 手伝い	158 (1.3)	36 (1.3)	34 (1.0)	88 (1.3)	33 (0.6)	121 (1.6)
	7. 打ち合せ	92 (0.7)	13 (0.5)	18 (0.5)	61 (0.9)	24 (0.5)	66 (0.8)
	その他	342 (2.6)	76 (2.7)	105 (3.2)	161 (2.4)	133 (2.7)	207 (2.7)
	合 計	12,931(100.0)	2,834(100.0)	3,331(100.0)	6,766(100.0)	4,975(100.0)	7,680(100.0)
中 学 校	順位 項目	学 年				性 別	
		合 計 (%)	1 年 (%)	2 年 (%)	3 年 (%)	中 男 (%)	中 女 (%)
	1. 保健指導等	7,625 (50.9)	1,772 (53.1)	2,622 (51.8)	3,231 (49.1)	3,973 (55.0)	3,643 (47.1)
	2. 委員会	2,762 (18.4)	723 (21.6)	1,064 (21.0)	975 (14.8)	892 (12.3)	1,867 (24.1)
	3. 生徒指導	1,804 (12.0)	191 (5.7)	417 (8.2)	1,196 (18.2)	1,032 (14.3)	770 (10.0)
	4. 連絡	1,790 (11.9)	406 (12.2)	618 (12.2)	766 (11.6)	837 (11.6)	947 (12.3)
	5. 届・証明等	384 (2.6)	102 (3.1)	152 (3.0)	130 (2.0)	235 (3.2)	147 (1.9)
	6. 打ち合せ	129 (0.9)	40 (1.2)	47 (0.9)	42 (0.6)	44 (0.6)	82 (1.1)
	7. 手伝い	89 (0.6)	17 (0.5)	22 (0.4)	50 (0.8)	34 (0.5)	55 (0.7)
	その他	397 (2.7)	89 (2.7)	121 (2.4)	187 (2.8)	181 (2.5)	215 (2.8)
	合 計	14,980(100.0)	3,340(100.0)	5,063(100.0)	6,577(100.0)	7,228(100.0)	7,726(100.0)
高 等 学 校	順位 項目	学 年				性 別	
		合 計 (%)	1 年 (%)	2 年 (%)	3 年 (%)	高 男 (%)	高 女 (%)
	1. 保健指導等	9,448 (61.7)	2,780 (60.7)	3,213 (59.5)	3,455 (64.8)	4,684 (63.2)	4,754 (60.4)
	2. 委員会	1,779 (11.6)	530 (11.6)	744 (13.8)	505 (9.5)	643 (8.7)	1,130 (14.3)
	3. 連絡	1,611 (10.5)	547 (11.9)	552 (10.2)	512 (9.6)	737 (9.9)	871 (11.1)
	4. 届・証明等	1,071 (7.0)	347 (7.6)	374 (6.9)	350 (6.6)	596 (8.0)	473 (6.0)
	5. 生徒指導	544 (3.6)	157 (3.4)	178 (3.3)	209 (3.9)	366 (5.0)	175 (2.2)
	6. 打ち合せ	177 (1.2)	48 (1.1)	64 (1.2)	65 (1.2)	65 (0.9)	112 (1.4)
	7. 手伝い	85 (0.5)	20 (0.4)	37 (0.7)	28 (0.5)	23 (0.3)	62 (0.8)
	その他	598 (3.9)	151 (3.3)	238 (4.4)	209 (3.9)	297 (4.0)	297 (3.8)
	合 計	15,313(100.0)	4,580(100.0)	5,400(100.0)	5,333(100.0)	7,411(100.0)	7,874(100.0)

⑥ 養護教諭の処置・対応（多項目選択）（表20）

来室者の訴えを聞いて養護教諭が何が必要か判断し、それに基づいて処置・対応を行った。その内容は以下の通りである。

〔小学校〕

以上の判断の結果、養護教諭が「記録の必要有」29,541ケースに対して取った処置・対応（多項目選択）のうち、小学校では、外科的処置が48.8%と最も多く、次いで保健・安全指導（31.0%）、連絡・打ち合わせ（13.8%）、休養（11.0%）と続く。保健・安全指導はもとより、家庭連絡（6.6%）、受診指導（3.5%）、生徒指導（1.7%）等にも相談的対応が含まれるが、相談・援助の項目は1,974（6.7%）ケースであった。その他に相談・援助の必要性を認めたが実施しなかったケース（相談必要不実施）も358あった。

学年が上がると外科的処置、休養、家庭連絡は少なくなる。代わって、連絡・打ち合わせと相談・援助が増える。

性別では、男子は女子より外科的処置の比率が高い。実数ではほとんどの項目で女子の方が男子より多く、2割増し（外科的処置）から8割増し（連絡・打ち合わせ）である。総数でも女子が多い。

〔中学校〕

中学校では養護教諭が「記録の必要有」32,339ケースに対して取った処置・対応のうちでは外科的処置（34.8%）が最も多く、ほぼ同率で保健・安全指導（33.7%）がつづく。次いで休養（15.2%）、相談・援助（12.3%）、連絡打ち合わせ（12.1%）であった。生徒指導は7.2%で6位であった。

学年が上がると外科的処置、保健・安全指導、連絡・打ち合わせが減り、相談・援助、生徒指導が増える。

男女それぞれの総数は近似するが、外科的処置、保健・安全指導、生徒指導の比率は男子に高く、休養、相談・援助、連絡・打ち合わせは女子に高い。

〔高等学校〕

高等学校では記録の必要有35,899ケースに対して取った処置・対応のうち保健・安全指導（36.3%）が最も多く、外科的処置（27.8%）、休養（20.7%）、投薬（13.1%）、相談・援助（11.3%）と続く。

学年が上がると投薬、相談・援助が増え、逆に保健・安全指導と連絡は1年生に多い。

男女の総数は近似している。男子の方が比率が高いのは外科的処置、投薬、相談・援助であり、女子の方が高いのは休養である。

〔全体〕

総じて外科的処置と保健・安全指導の比率が高い。小学校、中学校、高等学校と上がるに従って外科的処置は比率が低くなる。保健・安全指導の比率は漸増する。休養は1割から2割に増加する。投薬は小学校ではごくわずか（1.0%）であるが、高等学校では1割を越える。

相談・援助も中学および高等学校では1割を越える。その他の相談的対応では生徒指導が中学校で多い（7.2%）のが特徴的である。また、相談・援助の必要を認めつつも実施しなかったケースは比率はさほど高くないが、実数でみると小、中、高あわせて2,454ケースに及んでいる。各校平均1週間に2.5人ということである。

医療機関への受診指導は校種が上がると増える。保健室での応急的対応ですまないケースが増えるものと思われる。

表20 養護教諭の処置・対応（多項目選択）

	順位 項目	学 年				性 別	
		合 計(%)	1、2年(%)	3、4年(%)	5、6年(%)	小 男(%)	小 女(%)
小 学 校	1. 処置	14,423(48.8)	4,243(56.0)	4,742(55.1)	5,439(40.7)	6,275(54.2)	7,757(45.6)
	2. 保健安全指導	9,153(31.0)	2,350(31.0)	2,883(33.5)	3,920(29.3)	3,725(32.2)	5,253(30.9)
	3. 連絡打ち合せ	4,075(13.8)	740(9.8)	898(10.4)	2,437(18.2)	1,436(12.4)	2,536(14.9)
	4. 休養	3,243(11.0)	1,015(13.4)	1,102(12.8)	1,126(8.4)	1,224(10.6)	1,946(11.4)
	5. 相談・援助	1,974(6.7)	348(4.6)	607(7.1)	1,019(7.6)	605(5.2)	1,156(6.8)
	6. 家庭連絡	1,943(6.6)	654(8.6)	684(7.9)	605(4.5)	894(7.7)	1,005(5.9)
	7. 受診指導	1,031(3.5)	234(3.1)	361(4.2)	436(3.3)	442(3.8)	563(3.3)
	8. 早退	846(2.9)	262(3.5)	300(3.5)	284(2.1)	377(3.3)	457(2.7)
	9. 生徒指導	508(1.7)	84(1.1)	145(1.7)	279(2.1)	267(2.3)	229(1.3)
	10. 相談必要・実施せず	358(1.2)	69(0.9)	98(1.1)	191(1.4)	151(1.3)	199(1.2)
	11. 投薬	306(1.0)	91(1.2)	104(1.2)	111(0.8)	178(1.5)	160(0.9)
	12. 見学	283(1.0)	81(1.1)	71(0.8)	131(1.0)	95(0.8)	182(1.1)
	13. 病院移送	169(0.6)	39(0.5)	63(0.7)	67(0.5)	99(0.9)	63(0.4)
	その他	2,158(7.3)	496(6.5)	567(6.6)	1,095(8.2)	755(6.5)	1,359(8.0)
記録の必要者数		29,541(100.0)	7,576(100.0)	8,605(100.0)	13,360(100.0)	11,586(100.0)	17,006(100.0)
中 学 校	順位 項目	合 計(%)	1 年(%)	2 年(%)	3 年(%)	中 男(%)	中 女(%)
	1. 処置	11,249(34.8)	2,825(40.5)	3,795(35.7)	4,629(31.4)	6,097(38.8)	5,144(31.1)
	2. 保健安全指導	10,897(33.7)	2,497(35.8)	3,728(35.1)	4,672(31.7)	5,607(35.7)	5,275(31.9)
	3. 休養	4,931(15.2)	1,034(14.8)	1,658(15.6)	2,239(15.2)	2,144(13.6)	2,780(16.8)
	4. 相談・援助	3,976(12.3)	616(8.8)	1,164(11.0)	2,196(14.9)	1,730(11.0)	2,241(13.5)
	5. 連絡打ち合せ	3,921(12.1)	1,007(14.4)	1,427(13.4)	1,487(10.1)	1,671(10.6)	2,239(13.5)
	6. 生徒指導	2,328(7.2)	283(4.1)	640(6.0)	1,405(9.5)	1,366(8.7)	949(5.7)
	7. 受診指導	2,162(6.7)	494(7.1)	766(7.2)	902(6.1)	1,104(7.0)	1,058(6.4)
	8. 投薬	1,583(4.9)	273(3.9)	468(4.4)	842(5.7)	887(5.6)	696(4.2)
	9. 早退	1,577(4.9)	361(5.2)	609(5.7)	607(4.1)	741(4.7)	836(5.1)
	10. 家庭連絡	1,382(4.3)	360(5.2)	544(5.1)	478(3.2)	711(4.5)	671(4.1)
	11. 相談必要・実施せず	1,042(3.2)	191(2.7)	313(2.9)	538(3.7)	523(3.3)	519(3.1)
	12. 見学	431(1.3)	92(1.3)	166(1.6)	173(1.2)	185(1.2)	246(1.5)
	13. 病院移送	260(0.8)	68(1.0)	103(1.0)	89(0.6)	182(1.2)	78(0.5)
	その他	2,498(7.7)	450(6.4)	830(7.8)	1,218(8.3)	1,199(7.6)	1,299(7.8)
記録の必要者数		32,339(100.0)	6,982(100.0)	10,625(100.0)	14,732(100.0)	15,727(100.0)	16,548(100.0)
高 等 学 校	順位 項目	合 計(%)	1 年(%)	2 年(%)	3 年(%)	高 男(%)	高 女(%)
	1. 保健安全指導	13,048(36.3)	4,015(38.2)	4,318(35.6)	4,715(35.5)	6,611(37.8)	6,420(35.0)
	2. 処置	9,974(27.8)	2,968(28.2)	3,383(28.0)	3,623(27.3)	5,365(30.7)	4,598(25.1)
	3. 休養	7,432(20.7)	2,235(21.3)	2,397(19.8)	2,800(21.1)	2,777(15.9)	4,643(25.3)
	4. 投薬	4,685(13.1)	1,233(11.7)	1,536(12.7)	1,916(14.4)	2,499(14.3)	2,179(11.9)
	5. 相談・援助	4,071(11.3)	1,075(10.2)	1,355(11.2)	1,641(12.4)	1,796(10.3)	1,249(6.8)
	6. 連絡打ち合せ	3,258(9.1)	1,049(10.0)	1,199(9.9)	1,010(7.6)	1,456(8.3)	1,800(9.8)
	7. 受診指導	3,206(8.9)	964(9.2)	1,047(8.6)	1,195(9.0)	1,626(9.3)	1,578(8.6)
	8. 早退	1,823(5.1)	618(5.9)	570(4.7)	635(4.8)	924(5.3)	895(4.9)
	9. 生徒指導	1,089(3.0)	309(2.9)	362(3.0)	418(3.2)	705(4.0)	372(2.0)
	10. 相談必要・実施せず	1,054(2.9)	328(3.1)	353(2.9)	373(2.8)	575(3.3)	478(2.6)
	11. 家庭連絡	575(1.6)	206(2.0)	186(1.5)	183(1.4)	277(1.6)	296(1.6)
	12. 見学	390(1.1)	163(1.5)	107(0.9)	120(0.9)	204(1.2)	185(1.0)
	13. 病院移送	258(0.7)	70(0.7)	105(0.9)	83(0.6)	161(0.9)	96(0.5)
	その他	3,656(10.2)	1,075(10.2)	1,200(9.9)	1,381(10.4)	1,910(10.9)	1,738(9.5)
記録の必要者数		35,899(100.0)	10,517(100.0)	12,116(100.0)	13,266(100.0)	17,503(100.0)	18,342(100.0)

⑦ 身体的な訴えで来室した児童生徒に対して養護教諭が「相談」と判断した割合（表21）

身体的な訴えで来室した児童生徒に対して、養護教諭がどの程度「相談」のケースと判断したかをクロス集計した。

ここで、「相談」とは単純な処置や指導だけでなく、時間をかけじっくり話を聴く必要を認めた場合である。

〔小学校〕

小学校では、「けがやはなぢ」での来室者で記録が必要とされたのは11,760人であった。そのうち、相談と判断されたのは、499ケース（4.2%）であった。「気持ち悪い・痛い苦しい」で来室し記録が必要とされたのは6,695人であり、そのうち968ケース（14.5%）は相談ケースと判断された。以下、同様に「くすりがほしい」は272人中45ケース（16.5%）、「ねたいやすみたい」は218人中62ケース（28.4%）が相談と判断された。

以上の4項目を合算して「身体的な訴え」と見なすと、18,945人のうち相談と判断されたのは、1,574ケース（8.3%）ということになる。

〔中学校〕

中学校では、「出血やけが」での来室者で記録が必要とされたのは8,072人であった。そのうち、相談と判断されたのは、352ケース（4.4%）であった。「体調悪い・痛い苦しい」で来室し記録が必要とされたのは12,138人であり、そのうち2668ケース（22.0%）は相談と判断された。以下、同様に「薬がほしい」は915人中142ケース（15.5%）、「休養したい」は604人中232ケース（38.4%）が相談と判断された。

以上の4項目を合算して「身体的な訴え」と見なすと、21,729人のうち相談と判断されたのは、3,394ケース（15.6%）ということになる。

〔高等学校〕

高等学校では、「出血やけが」での来室者で記録が必要とされたのは6,893人であった。そのうち、相談と判断されたのは、454ケース（6.6%）であった。「体調悪い・痛い苦しい」で来室し記録が必要とされたのは14,939人であり、そのうち3,185ケース（21.3%）は相談と判断された。以下、「薬がほしい」は2,441人中423ケース（17.3%）、「休養したい」は1,304人中370ケース（28.4%）が相談と判断された。

以上の4項目を合算して「身体的な訴え」と見なすと、25,577人のうち相談と判断されたのは、4,432ケース（17.3%）ということになる。

〔全体〕

身体的な訴えのうち、けがなど外傷的な問題の場合でも、何らかの相談的な問題を含んでいると判断されたケースが小学校、中学校、高等学校でそれぞれ4.2%、4.4%、6.6%あった。外傷に比して多少とも心理的ニュアンスが加わると思われる他の3項目については、割合は跳ね上がり、14.5%（小学校の「ねたいやすみたい」）から38.4%（中学校の「休養したい」）にまで及んでいる。

身体的な訴え4項目を合算すると、小、中、高あわせて14.2%が相談と判断されている。

表21 身体的な訴えと養護教諭の判断

		養 護 教 諭 の 判 断							
		小 学 校		中 学 校		高 等 学 校		合 計	
		記録の 必要有	相談 (%)	記録の 必要有	相談 (%)	記録の 必要有	相談 (%)	記録の 必要有	相談 (%)
来 室 理 由	けがやばなぢ (出血やけが)	11,760	499(4.2)	8,072	352(4.4)	6,893	454(6.6)	26,725	1,305(4.9)
	気持ち悪い(体 調悪い)・ 痛い・苦しい	6,695	968(14.5)	12,138	2,668(22.0)	14,939	3,185(21.3)	33,772	6,821(20.2)
	くすりがほしい	272	45(16.5)	915	142(15.5)	2,441	423(17.3)	3,628	610(16.8)
	ねたいやすみたい (休養したい)	218	62(28.4)	604	232(38.4)	1,304	370(28.4)	2,124	664(31.2)
	合 計	18,945	1,574(8.3)	21,729	3,394(15.6)	25,577	4,432(17.3)	66,251	9,400(14.2)

注：(%)は来室理由に対して養護教諭が相談が必要と判断した割合である。

付) 質問票

学校基礎調査票

1. 学校所在地 (1. 人口50万以上の市 2. 人口50万未満の市 3. 町村)
2. 校種別 (小 ・ 中 ・ 高) ★ 高校のみ (普通 ・ 職業)
3. 学級数 ()
4. 児童・生徒数

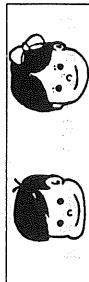
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合 計
男							
女							
計							

5. 保健室に付随する相談室 (相談コーナー) の有無 (有 ・ 無)
6. 教育相談部 (係) の有無 (有 ・ 無)
- ★ 養護教諭の教育相談部 (係) に所属の有無 (有 ・ 無)
7. 現在, 養護教諭が関わり, 心の問題のために継続して支援している事例の有無
(無 ・ 有 [] 例)
8. 現在, 保健室登校の有無 (無 ・ 有 [] 例)

〈小学生用〉 ほけんしつかーど

1. はいるときに、かきましよう。○をつけましよう。

がつ	にち	じ	ふん
----	----	---	----



1ねん	2ねん	3年生	4年生	5年生	6年生
-----	-----	-----	-----	-----	-----

2. じかん

ごぜん	あさ	べんきょう中	やすみじかん	ひるやすみ・きゅうしょく
ごご	べんきょう中	やすみじかん	ほうかご	

3. どうしたの (どれかひとつ)

() 1. けがや はなちのであて () 2. きもちわるい いたい くるしい () 3. くすりがほしい () 4. ねたい やすみたい () 5. せんせい あのね きいて () 6. はからせて () 7. つきそい ついてきた	() 8. おみまい () 9. よばれたから とうばん () 10. かかり とうぼうがあつて () 11. れんらく ようが () 12. かして みせて () 13. おはなし おしゃべり () 14. そのた ()
--	---

(ここにはかかないで下さい。)

〈中・高生用〉保健室利用カード

1. 保健室に入る人は、枠の中に記入して下さい。当てはまる所に○をつけてください。

月	日	時	分
---	---	---	---

男	女
---	---

1 年	2 年	3 年
-----	-----	-----

2. 来室時間

始業前	授業中	休み時間	昼休み・給食	放課後
-----	-----	------	--------	-----

3. 来室理由（おもな理由一つ）

() 1. 出血やけがの手当 () 2. 体調が悪い、痛む、苦しい () 3. 薬がほしい () 4. 休養したくない () 5. なんとなく () 6. 困ったことあり聞いてほしい () 7. 身長、体重、視力等測る () 8. 爪きり、体温、手洗い、うがい () 9. 自習や時間待ち	() 10. 友達とのつきあい、付添い () 11. お見舞い () 12. 呼ばれたから () 13. 委員会活動 () 14. 連絡、打ち合せ () 15. 資料や本を見る () 16. 仲間や先生とのおしゃべり () 17. その他 ()
---	--

（ここには記入しないで下さい。）

養護教諭の判断と処置・対応記録

*注1) 下記の記録不要のものには、必ず「○」をつけて下さい。 記録の必要（無）
 注2) 保健室外における対応・指導の場合「○」をつけて下さい。（★外）

--	--

1. 判断：該当項目に必ず○をつけて下さい。（各枠内、主な理由を一つ選ぶ）

1-1 救急処置 1. 必要なし 2. 胃腸症状 3. 頭痛 4. 発熱 5. かな 6. 疲労 7. 不定愁訴 8. アレルギー 9. 外科に関する事 10. 眼科に関する事 11. 耳鼻科に関する事 12. 歯科に関する事 13. その他（ ）	☐
1-2 相談 1. 必要なし 2. 発育・健康状態 3. 友人関係 4. 異性関係 5. 家族・家庭 6. クラブ・部活動 7. 児童・生徒活動 8. 学習・卒業 9. 進路等 10. その他の学校生活 11. アルバイト 12. 部活動 13. 学校外の活動 14. 突然とした悩み 15. その他（ ）	☐
1-3 指導・連絡 1. 必要なし 2. 連絡 3. 打ち合わせ 4. 委員会活動 5. 生徒指導 6. 保健・安全指導 7. 手伝い 8. 届け、証明等 9. その他（ ）	☐
1-4 その他 1. 必要なし 2. 不明 3. その他の内容（ ）	☐

2. 処置・対応：当該項目のすべてに○をつけて下さい。

1. 投薬 2. 処置 3. 休養 4. 早退 6. 病院移送 7. 家庭連絡 8. 受診指導 9. 保健・安全指導 10. 生徒指導 11. 相談・援助 12. 相談・援助の必要性 13. 認めざる実施せず 14. 連絡、打ち合せ等 15. その他（ ）	☐	☐	☐	☐
---	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------

3. 相談、指導メモ *対応時間（約 時間 分）

気になった点や相談・対応内容等 	☐	☐
-----------------------------	--------------------------	--------------------------

※ 記入後、「保健室利用カード」欄々に、ホチキスでとめて下さい。

保健室相談活動調査研究委員会委員

◎……委員長

安 藤 悦 子	埼玉県立大宮北高等学校養護教諭
◎飯 田 澄美子	聖路加看護大学教授
飯 長 喜一郎	お茶の水女子大学助教授
井 上 清	埼玉県南教育センター主任指導主事
入 江 宏	千葉市立小中台中学校校長
遠 藤 俊 一	土田病院院長
鎌 田 尚 子	東京都立日比谷高等学校養護教諭
上 出 弘 之	前東京都立児童相談センター所長
櫻 井 しのぶ	聖路加看護大学助教授
白 木 文 代	京都府教育委員会保健体育課指導主事
鳥 山 初 江	群馬県立ろう学校養護教諭
馬 場 禮 子	東京都立大学助教授
平 間 宏 子	横浜市立保土ヶ谷小学校養護教諭
山 本 玲 子	東村山市立第三中学校養護教諭
高 木 広 文	文部省統計数理研究所助教授

なお、本書の作成に当り

富 岡 賢 治	文部省体育局学校健康教育課長
竹 本 廣 文	文部省体育局学校健康教育企画官
出 井 美智子	文部省体育局教科調査官
梅 田 珠 実	文部省体育局専門員

のほか、下記の方々にご助言をいただきました。

猪 股 俊 二	文部省体育局体育官
石 川 哲 也	文部省体育局教科調査官

平成3年11月発行

発行者 財団法人 日本学校保健会

〒105 東京都港区虎ノ門2-3-13
第18森ビル8階

電話 03 (3501) 3785番、0968番

勝美印刷(株)